

令和 4 年 6 月 3 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K18580

研究課題名（和文）オルタナティブ家族で精子提供によって出生した子の情報開示ジレンマに関する研究

研究課題名（英文）Women Giving Birth and Raising Children: Family Building through Sperm Donation

研究代表者

牟田 和恵（Muta, Kazue）

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：80201804

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：女性カップルの精子提供による家族形成・子育て実践の調査を行い『女性たちで子を産み育てること：精子提供による家族づくり』を公刊した。同書は国際的な研究知見を踏まえ理論的な議論を加えた家族社会学・フェミニズム理論・ジェンダー論の成果としても重要なものである。目次は以下の通り。
序 同性カップルが子を産み育てるといこと、それぞれの家族たち：日本での調査から、II 海外からの知見と示唆 【カトリック国】 フランス、イタリア、アイルランド 【東アジア】台湾、韓国、III 女性たちだけの子育てを考える：彼女たちが示唆する「家族」の可能性、IV 【理論編】女性同士の家族を通してみる「家族」とケア、Vまとめ

研究成果の学術的意義や社会的意義

同性婚はもとより、同性カップルの生殖補助医療が認められておらず、当該家族に対する社会の許容度もきわめて低い日本では、同性カップルが子をもうけるということ自体が、金銭的にも社会資源の面でも容易ではない。それにもかかわらず子をもうけたカップルが直面した・している困難と、その際にとった戦略、そして他国においてはどういった問題が解決されているかに関する事例を収集し分析検討することによって、当該家族のもとで育つ子の法的権利・福祉のあり方を改善するための基礎となる情報資料をまとめることができた。

研究成果の概要（英文）：We published a book, "Women Giving Birth and Raising Children: Family Building through Sperm Donation," as a compilation of academic findings never before seen in Japan as a research study of family formation and child-rearing practices by sexual minorities using assisted reproductive technology. The book adds theoretical discussions based on international research findings and is an important achievement in family sociology, feminist theory, and gender theory. The table of contents is as follows.

Introduction: Same-sex couples bearing and raising children, and their respective families: From the research in Japan, II Findings and Suggestions from Abroad [Catholic countries] France, Italy, Ireland [East Asia] Taiwan, Korea, III Considering child-rearing by women alone: Possibilities of "family" suggested by these women, IV [Theory V. In summary: Suggestions for the development of the necessary systems in the future.

研究分野：ジェンダー研究

キーワード：精子提供 同性カップル 生殖技術 オルタナティブな家族

1. 研究開始当初の背景

日本では、同性婚は法的に認められておらず、生殖補助技術も適用が認められていない。しかし**実態としては知人からの精子提供や海外の精子バンクでの購入によって子をなし生育するケースが登場している**。親が自身の性的指向を秘匿していない場合であっても、子の出生の情報をオープンにすることには、周囲から否定的発言が子に浴びせられることが予測され子にネガティブな影響が及ぶ懸念は拭い切れず、また子がアイデンティティ形成に至る時期まで親は子のプライバシーとして出自情報を極力秘匿すべきであるとの考え方も取り得る。しかしこうした秘匿の手法をとることは、家族の形成に関するオルタナティブな実践を積極的・意志的に行っている親たちにとってジレンマである。日本社会が初めて経験しつつあるこの問題にどのように対処し子や家族の福祉や法的権利を保障していくか、こうした状況にある家族の経験を収集・分析していくことが必要である。

2. 研究の目的

精子提供によって子どもを設け育てている女性カップルの経験しているジレンマや葛藤について聞き取り調査を行い、将来の当該家族・子どもの法的権利や福祉の向上のための提言を行う

3. 研究の方法

国内および海外において精子提供によって子をなし子育てしている女性カップルにインタビューを行いそれに基づいて実態を分析検討するほか、生殖補助医療に関する研究文献、レズビアンファミリーに関する国内外の研究棟を渉猟し、考察を深めた。また、フェミニズムや倫理学の海外の文研研究を通じて理論的知見を得た。なお、海外調査は、同性カップルの生殖補助医療についてカトリックや儒教の影響から抵抗がいまだ大きい諸国（フランス、イタリア、アイルランド、台湾）で実施した。

4. 研究成果

同性婚はもとより、同性カップルの生殖補助医療が認められておらず、当該家族に対する社会の許容度もきわめて低い日本では、同性カップルが子をもうけるということ自体が、金銭的にも社会資源の面でも容易ではない。それにもかかわらず子をもうけたカップルが直面した・している困難と、その際にとった戦略、そして他国においてはどのように問題が解決されているかに関する事例を収集し分析検討することによって、当該家族のもとで育つ子の法的権利・福祉のあり方を改善するための基礎となる情報資料をまとめることができ、本科学研究の総まとめとして『女性たちで子を産み育てること：精子提供による家族づくり』を公刊した。同書は国際的な研究知見を踏まえ理論的な議論を加えた家族社会学・フェミニズム理論・ジェンダー論の成果としても重要な書となった。目次は以下の通りである。
序 同性カップルが子を産み育てるといふこと、それぞれの家族たち：日本での調査から、
II 海外からの知見と示唆 【カトリック国】 フランス、イタリア、アイルランド 【東アジア】台湾、韓国、III 女性たちだけでの子育てを考える：彼女たちが示唆する「家族」の可能性、IV【理論編】女性同士の家族を通してみる「家族」とケア、Vまとめ

そのほか、以下の計 14 件の雑誌論文ほかの研究成果を発表した。

雑誌論文

2020年

岡野八代 ケアする民主主義とは 世界 75巻 256 - 257

牟田和恵 家族の歴史とケアの倫理 文化看護学会 12 35 - 37

岡野八代 ケアの倫理は現代の政治規たりうるのか? 思想 1152号 6 - 28

2019年

岡野八代 家族と政治：依存する人間像からの、新たな社会構想 女性学研究 27号 54 - 79 オープンアクセス

2018年

丸山里美 近代家族の特質と女性の隠れた貧困 生まれ、育つ基盤 子どもの貧困と家族・社会 明石書店 ページ: 150-171 牟田和恵 いまなぜ家族か：家族を強くするのは何か 季刊 人間と教育 98巻 ページ: 20-27

牟田和恵 ジェンダー秩序の解体と新しい家族の創造 大原社会問題研究所雑誌

巻: 722 ページ: 3-16 オープンアクセス

岡野八代 ケアの倫理から考える福祉権の可能性 福祉権保障の現代的展開 生存権のフロンティアへ

巻: 日本評論社 ページ: 65-87

岡野八代 家族：政治からの解放は可能か 女性・戦争・人権 巻: 16 ページ: 65-86

40022046374 CiNii

2017年

牟田和恵 家族研究の継承と課題：家族社会学の脱「家族」化に向けて__現代日本の家族社会学を問う---多様化のなかの対話__ ページ: 253-268

学会報告

2018 岡野八代 大阪府立大学女性学研究センター

2017 Okano, Yayo and Satomi Maruyama

The lack of care, the lack of participation: From the experiences of poverty of Japanese women

International Conference on Caring Democracy

図書

2020 岡野八代 ケアするのは誰か：新しい民主主義の形へ 総ページ数 157

白澤社 ISBN 4768479820

2021 女性たちで子を産み育てること：精子提供による家族づくり 白澤社 総ページ 204 ISBN 978-4768479872

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 牟田和恵	4. 巻 12
2. 論文標題 家族の歴史とケアの倫理	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文化看護学会誌	6. 最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牟田和恵	4. 巻 75
2. 論文標題 ケアする民主主義とは	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 256-257
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 1152
2. 論文標題 ケアの倫理は、現代の政治的規範たりうるのか？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 6-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 27
2. 論文標題 家族と政治――依存する人間像からの、新たな社会構想	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 女性学研究	6. 最初と最後の頁 54-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牟田和恵	4. 巻 98
2. 論文標題 いまなぜ家族か---「家族」を強くするのは何か	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊 人間と教育	6. 最初と最後の頁 20-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牟田和恵	4. 巻 722
2. 論文標題 ジェンダー秩序の解体と新しい「家族」の創造	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 日本評論社
2. 論文標題 ケアの倫理から考える福祉権の可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福祉権保障の現代的展開 生存権のフロンティアへ	6. 最初と最後の頁 65-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 16
2. 論文標題 家族 政治からの解放は可能か?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女性・戦争・人権	6. 最初と最後の頁 65-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山里美	4. 巻 明石書店
2. 論文標題 近代家族の特質と女性の隠れた貧困	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生まれ、育つ基盤 子どもの貧困と家族・社会	6. 最初と最後の頁 150-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 16
2. 論文標題 家族 - 政治からの解放は可能か？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女性・戦争・人権	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牟田和恵	4. 巻 NA
2. 論文標題 家族研究の継承と課題---家族社会学の脱「家族」化へ向けて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代日本の家族社会学を問う---多様化のなかの対話	6. 最初と最後の頁 253-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 岡野八代
2. 発表標題 家族と政治 依存する人間像からの、新たな社会構想
3. 学会等名 大阪府立大学女性学研究センター（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Okano, Yayo and Satomi Maruyama
2. 発表標題 " The Lack of Care/ The Lack of Participation: From Experiences of Poor Women in Japan
3. 学会等名 International Conference on Caring Democracy (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 岡野八代	4. 発行年 2020年
2. 出版社 白澤社	5. 総ページ数 157
3. 書名 ケアするのは誰か? 新しい民主主義のかたちへ	

1. 著者名 牟田和恵、岡野八代、丸山里美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 白澤社	5. 総ページ数 204
3. 書名 女性たちで子を産み育てるということ: 精子提供による家族づくり	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	丸山 里美 (Maruyama Satomi) (20584098)	京都大学・文学研究科・准教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	岡野 八代 (Okano Yayo) (70319482)	同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授 (34310)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関